

2007年11月30日

第1回防災運動会 報告書

〒500-8815 岐阜市梅河町1-4

社会福祉法人岐阜アソシア

館長 高橋 秀夫

担当 棚橋公郎

概要

要援護者、支援者、地域住民も一体となって防災に関連した競技の中で、身近な防災意識を高揚させること、また障害を持っていても協働できることを周知していただくために10月14日曜日に岐阜県立岐阜盲学校で開催した。

主催、共催、後援などのご協力を得、参加人員、スタッフ、関係者等約230名と一緒に防災運動会を楽しんだ。

主催 社会福祉法人岐阜アソシア



高橋秀夫常務理事

実行委員長 視覚障害者生活情報センターぎふ



山田智直副館長

共催 岐阜県立岐阜盲学校・社団法人岐阜県視覚障害者福祉協会

副実行委員長 岐阜県視覚障害者福祉協会



清水和弘会長

手話通訳 岐阜県盲ろう者友の会



松波春樹氏・野口利弥氏

後援 来賓



岐阜振興局 渡辺福祉課長



岐阜県教育委員会 松川教育長



岐阜市 箕浦福祉部長

岐阜中消防署・京町自治会連合会・明德自治会連合会・社福/NHK 厚生文化事業団中部支局

協賛(五十音順)

オオサキメディカル(株)(クリーンコットンシリーズなど提供)・兼山印刷(株)(ネームシール・チラシ提供)・河村製紙(株)(トイレトペーパー提供)・岐阜県森林組合連合会(高賀の森水提供)・コガネパン(株)(パン提供)・セコム(株)岐阜統轄支社(非常用ホイッスル提供)・(株)藤田商店(緊急ラジオライトご提供)・ホリカフーズ(株)(レスキューフーズ提供)

日時 2007年10月14日(日)午前9時～午後2時30分

会場 岐阜県立岐阜盲学校運動場

参加人数 競技参加者・サポートスタッフ・来賓他合計 約230名

チーム構成 1チーム30名 5チーム

審査員・講評

副審査委員長 明德自治会連合会



赤塚昌紀会長

岐阜県障害福祉課



松原勝己課長補佐

岐阜市障害福祉室



鷲見守康室長

講評・岐阜市中消防署



高橋博美署長

岐阜県立岐阜盲学校



泉義明校長

審査委員長 京町自治会連合会



藤澤真一会長

解説 レスキューストックヤード 栗田暢之代表理事 浦野愛事務局長



プログラム

タイムスケジュール

- 09 時～ 受付開始(チーム分け)9 時 45 分
- 09 時 50 分～ 開会式・オリエンテーション
- 10 時 15 分～ 種目 1 あんしん・安全 搬送リレー
- 11 時 00 分～ 種目 2 火事だー 大声競争
- 11 時 45 分～ 種目 3 ビニール袋で 消火競争
- 12 時 30 分～ 種目 4 非常食競争 兼 昼食
- 13 時 25 分～ 種目 5 チーム対抗バケツリレー
- 14 時 00 分～ 講評・表彰式
- 14 時 30 分～ みんなで後片付け
- 14 時 45 分～ 解散

内容

競技種目は防災の関するものの中から次の種目を行った。

1. あんしん・安全に運ぼう 搬送リレー (競技者数 1 チーム 21 名)

岐阜中消防署員による簡易担架の作り方説明に始まり、全 5 チーム (チーム 21 名ずつ) による、担架作り、救護者搬送のリレーを行った。担架が崩れるチームはなく、全チーム安全にまた安心して運ぶ意識がつけられた。

実際の災害現場での急務な活動の一つとして担架を作り搬送するということを一人でも知っていることにより負傷者などの救命につながる。



中消防署員による簡易担架の作り方模範指導



各チームの様子 1チームに一人チェックする署員が配置



救護者搬送

2.火事だー 大声競争（競技者数1チーム5名）

音量測定器による測定をもとにチーム単位で競い合った。非常時にはなかなか大きな声は出せないことも含め、できるだけ多くの方に知っていただくための簡単な方法として行った。中にはユニークな掛け声もあり、会場をなごませた。

いざとなった場合は声が出ないこともあるが、日ごろからこうした声を出すことで閉じ込められている方自身、また救援者との連携が図れる。



レスキューストックヤード 浦野愛事務局長による模範？



地域の子供たちも

3. ビニール袋で 消火競争 (競技者数 1 チーム5名)

消火用のビニール袋で、5メートル先、10メートル先の標的めがけて当て、その点数を競うものであったが、なかなかその標的に当たらず、実際の市民による消火活動の難しさも感じられた。

初期消火の大切さや、火災による被害を食い止める必要性を実感し、今後の対応を考える理解が得られた。



なかなか難しかった

4. おいしく 楽しく「非常食」 (全員)

今回提供の非常食などは、災害当日あるいは援助物資が届くまでの期間に食するという意味で、実際にどの程度落ち着いて全体で分配できるのかなど、またゴミの問題など様々な課題を考えさせられる競技となった。ただチーム毎にあわてず、仲良く、配食できるかを分かち合えたのではと考えます。

備蓄の必要性とその食材を検討するいい材料となる。温かい食べ物であり、万人が食することのできるメニューなどを構成し保存する必要がある。



あわてず確実にみんなと一緒に

5. みんなで一緒に バケツリレー (全員)

これは最後地域や様々な方が一緒になって一つのことを成し遂げる、協力できることを目的として行ったが、最後まで一生懸命にバケツを手渡している方々の協力関係は素晴らしく、最後は全員が楽しく終えることができた。

これもビニール袋での消火競争と並び火災を想定したものである。消防車が車での間、地域として協力し何ができるか、何が必要か、を様々な角度から考える。たとえば水の確保、人員の確保、水を手渡す容器の確保などである。



見えなくても手渡しできます！

6.ふれてみよう 消防車



消防車に触れることはなかなかできなかった。

梯子車の体験や、放水訓練などの要望も出されました。

7.グラっときたら？ 地震体験



震度7以上の体験はとても怖いとの感想が多く寄せられました。

家具の固定や、出入り口の確保など、揺れる間に何かを感じられたのではないのでしょうか。

8.とおれるかな？ 煙体験ハウス



見えない恐怖や不安をかんじていただけたようです。

実際の火災ではこの煙に加え、有毒ガスが発生することも考えると、安易に非難することも躊躇されます。そのうえで最も安全な非難の仕方を考えていただきました。

9.いっぱいあるね 非常食



非常食とはいえ意外においしかった。

通常の食事のほかに、細かくされた食事や、乳幼児、カロリーコントロールされている方などへの食材の各種備蓄の必要性をあらためて認識します。

10. これは便利 防災グッズ



様々なグッズがいざという時に役に立つこと、非常食の大切さもわかりました。

今この時に必要なものを確実に用意していくことや、病人がいる世帯等の対応など個別の考え方でできることをできるときに行う必要性を理解していただけた。

まとめ

全国でも初めての視覚障害者・児が中心となり、盲学校、地域が協力して行う防災を競技にした訓練「防災運動会」を開催できたことは極めて重要で今後の防災対策や考え方に少しならずとも警鐘できたのではないかと考えます。要援護者という枠組みに入るだけではなく、支援者としての立場もあることを理解してこそ、地域力の底上げや、特別支援学校他高齢者、障害者等の施設周辺での新たな取り組み事例として展開していただければと考える。

また岐阜県においても特別対策推進地域の選定がされているが、その範囲の特別支援学校周辺地域自治会とともにぜひこうした取り組みを行っていく必要性和、一緒にできる、助けあうといった、最初の自助から共助への移行が迫られている。

また地域自治会などの協力を得て 第二回防災運動会開催を目指していきたい。

今回の明細

レスキューフーズ 提供数 265食 残 37食 アソシア備蓄（確認済み）

高賀の森水 提供数 264本 残 48本 アソシア備蓄（確認済み）

あんぱん 提供数 260個 残 0個（当日配布済み）

参加人数 総人数約 230名 内訳

来賓3名+随行者4名 審査員6名+随行者1名 サポート1名 司会1名 解説1名 岐阜盲ろう者友の会 2名 岐阜市 2名 岐阜盲学校職員 25名 岐阜アソシア職員9名 岐阜アソシアボランティア 15名 岐阜盲学校生徒・児童 約 20名 岐阜県ほか視覚障害者・児 79名(付き添い 18名) 中消防署員 15名 一般参加者 約 70名 日本防災士会岐阜県支部 10名

防災運動会記念・写真展開催

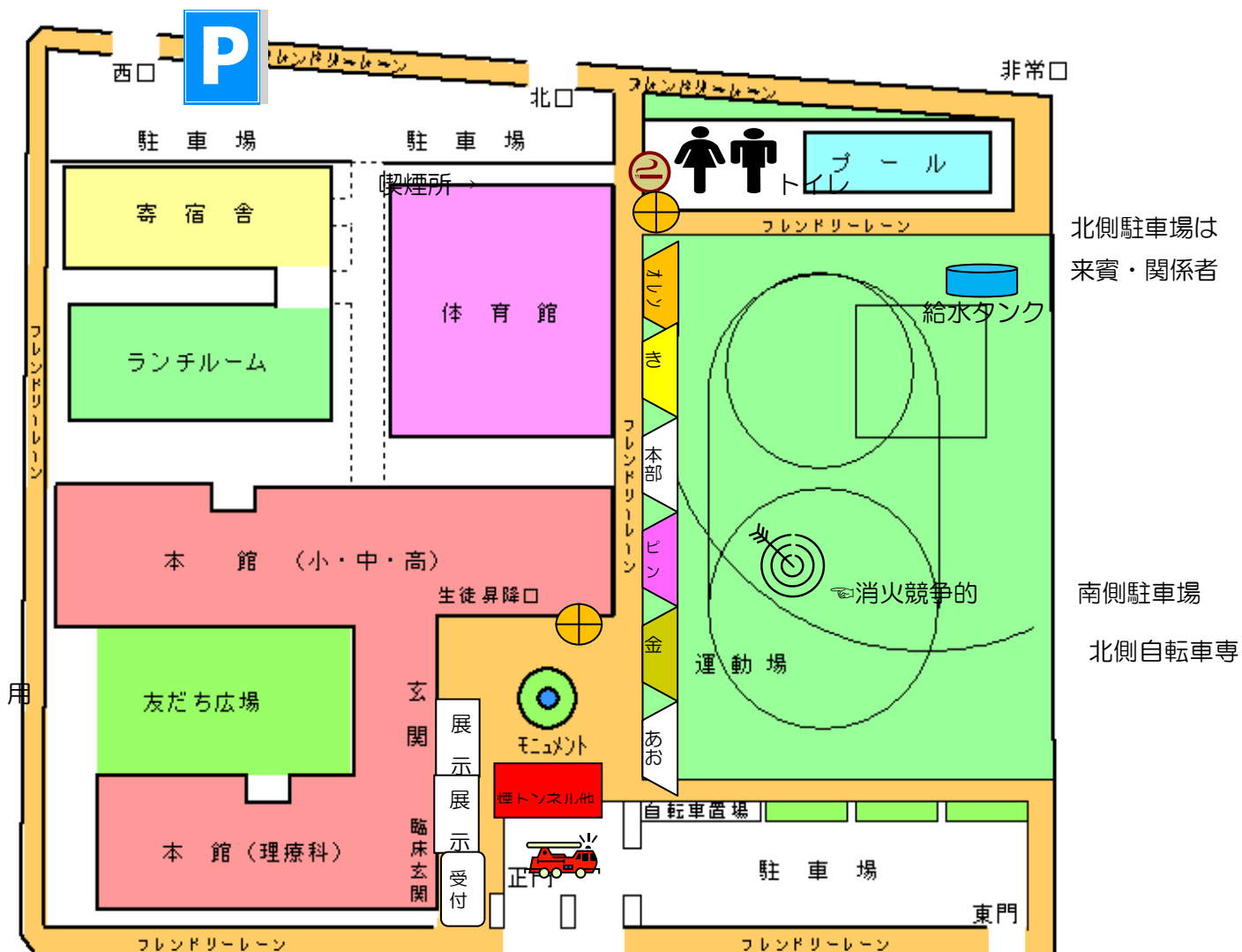
第一回の防災運動会を記念してセンター1階廊下壁面にて防災運動会記念写真展を行い、希望者には無料で写真の提供をしました。延べ数（12名92枚）



約 200枚の写真を展示 無料配布

岐阜盲学校 会場図

 ← 手洗い場
  ← 喫煙所



問合せ先

視覚障害者生活情報センターぎふ

電話 058-263-1310

fax 058-266-6369

メール associa@ccn.aitai.ne.jp

ホームページ <http://www.gifu-associa.com>